日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２５期・13/14巻　　２０１９年　５・６月号　　ＮＯ．213/4

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すぽう

Susono Reihou Alpine Club

岳滑降

山行ＮＯ．１８１９
２０１９．０５．２６
富士山・万年雪沢（仮称）

第５３期・第２回理事会　　2019. 5. 19　13：00～　　静岡市・長田生涯学習センター

伊豆（鍋島）、三島（山口）、駿東（曽根）、裾野（後藤）、沼津（欠席）、ふじ山楽歩（加藤）、あさぎり（斎藤・福原）、清水（小林）、静岡（瀧・吉田）、安倍っ子（竹本）、焼津（古本）、山登歩（花澤・山本）、ＮＭＣ（森）、浜松（後藤）、フレンズ（欠席）

（理事会の報告書は未達）

専門部会議報告　　２０１９．０５．１９（日）

教育・遭対部報告書　　記録：ふじ山楽歩山の会（加藤秀子）
日　時：２０１９年５月１９日（日）ＡＭ９：００～１２：００
場　所：静岡市長田障害学習センター
出席者：伊豆ＨＣ（遠藤）、三島労山（高良）、裾野麗峰（後藤）、あさぎり（斉藤・佐野）、沼津（欠席）、山楽歩（加藤）、安部っ子（竹本）、清水労山（飯沼）静岡労山（瀧）、焼津（松村）山とんぼ（緒方・山本）、浜松（後藤）　　計１１団体　１３名

司会：後藤隆徳（裾野麗峰）
議題
１、今年度　春山山行計画一覧表の点検（別添参照）
司会：参加者１名の計画があるが１人で間違いがないか？出来る限り単独登山は控えて複数で行く方が良いではないかと思うが？　以前、自分の会でも丹沢を単独で登り、途中で心臓麻痺を起して亡くなっている。これも誰かいたら直ぐに対応が出来て亡くなる事もなかったのではないかと思う。
又、ＧＷの一覧表は４月の理事会で山中１泊の雪山という条件で提出という事だったが、これで良かったか？前日駐車場泊の日帰りでも厳しい山はあると思うが・・・。

三島：総会で浜松労山の提案で「春山山行計画一覧表」の提出は意義が感じられないので不要にしたらどうか？という意見ではなかったか？

浜松：山行計画書を出して貰った段階で、教育遭対部で計画書の内容と参加者のチェックをしてＯＫであれば認めています。計画書のしばりを設けている。山行後も駐車場に着いた時点で、留守番本部に必ず連絡するよう義務づけている。
ＧＷの山行計画提出については、「それを提出して県連では何を求めているのか」は、一応理解はしている。

静岡：ＧＷ，冬山は事故が多い。何かあった時に全国連盟とか報道関係者から県連に問い合わせがくる。県連でも、ある程度把握していないと対応が難しい。

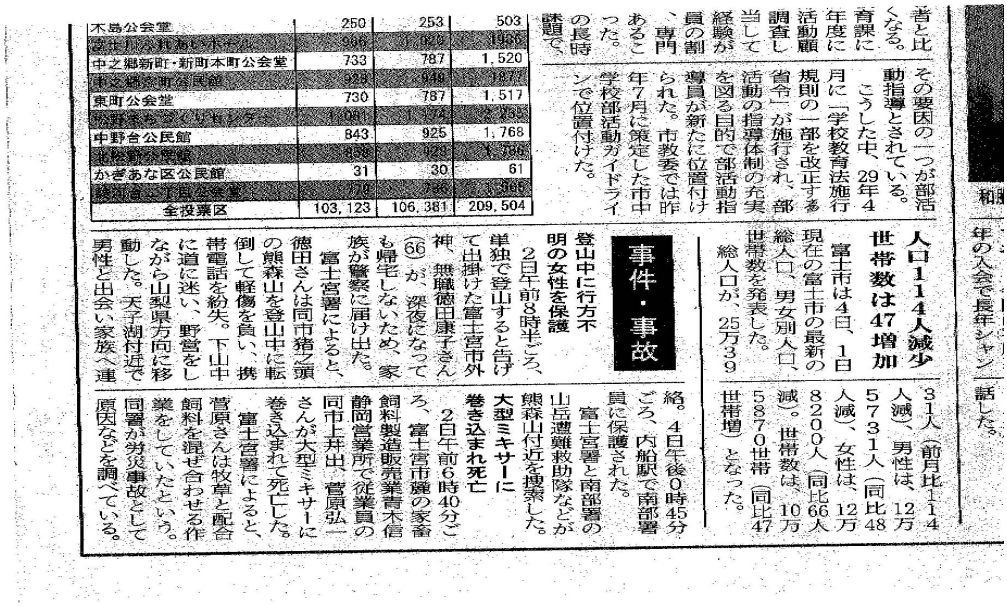
司会：ＧＷ中の東北に出かけている最中に、静岡新聞から愛鷹山で遭難があった。この山はどのような山なのか・・・と電話があった。何かあると、やはり直ぐ問い合わせがくる。一覧表の提出は賛否両論あるが、それは今後の問題として、今年度は実施しましょうと言う事で理事会では決まった。

２、事故報告・点検・反省・教訓（今年度２件）
イ．あさぎり山の会（報告＝斎藤理事長）
３／２日１４：００～４日１２：０１分発見。
静岡・山梨県境、天子山塊　五宗山山頂で下山路を見失い、間違い尾根に入り３日間不明となった。６６歳。女性。単独登山。無届登山。
携帯は電池切れのあと紛失。食料は日帰りだったが充分あった。地図は持参していたが地図読みができなかった。頂上は広くてウロウロ廻っているうちに下山路が分らなくなった。夜は雪がふってきたが、草の中に潜り込み、傘を広げ、落ち葉で覆って寒さを凌いだ。持

ってきていたアルミシートを敷き、ダウンの防寒着、ホッカイロを使った。

司会：広い山頂での下山路はわかりづらい。確認ではなく、頂上直下で何か印をしておく方が良い。
安部っ子：会で地図読みの勉強はしていたのか？又、要は計画書が提出されていなかっ事で、結果的に捜索が遅れた。
あさぎり：会としては教育の機会を与えている。後は本人の意思による。
静岡：遭難したらタオルとか枝を折るなどをして目印をつけておくのもいいかな。
浜松：ココヘリを推奨する。
安部っこ：２万５千図とＧＰＳの両方持たないと、位置場所を確認できないこともある。スマホは点けっぱなしだと５～６時間が精いっぱい。
三島：スマホは使い方次第で２～３日は持つ。
安部っこ：複数人いれば使い分けできる。

静岡：捜索グループを４班に分けた内訳は？
あさぎり：力のある人を中心に２～３人つけたというだけ。警察は多少の摺り合わせをしただけで、単独で捜索。携帯は繋がらない場所もあり、中間地点を設けて留守本部と連絡を取り合った。無線はあまり使っていなかったのでなかなか苦労もあった。連絡網は完全にはできていない・
三島：ネットからの入会者が多いので、スマホやパソコンで全員連絡ができる事が多い。
静岡：遭難者のその後の様子は？
あさぎり：最初は良かったけれど、身内とか親戚から迫られてうつ状態になりそうとか。テレビからは何回も電話があった。警察から発表するようだ。



木島公会堂	250	253	503
富士人公共センター	966	922	1,888
中之郷新町・新町本町公会堂	733	787	1,520
中之郷町公民館	929	949	1,878
東町公会堂	730	787	1,517
松野まちづくりセンター	1,091	1,174	2,265
中野台公民館	843	925	1,768
北松野公民館	838	928	1,766
かぎあな区公民館	31	30	61
鈴川台一丁目公会堂	770	796	1,566
全投票区	103,123	106,381	209,504

者と比べ
くなる。
育課に
年度に
活動顧
調査し
当して
経験が
員の割
、専門
あること
った。
の長時
題で、
その要因の一つが部活
動指導とされている。
こうした中、29年4
月に「学校教育法施行
規則の一部を改正する
省令」が施行され、部
活動の指導体制の充実
を図る目的で部活動指
導員が新たに位置付け
られた。市教委では昨
年7月に策定した市中
学校部活動ガイドライ
ンで位置付けた。

人口114人減少
世帯数は47増加

富士市は4日、1日現在の富士市の最新の総人口、男女別人口、世帯数を発表した。総人口が、25万39

事件・事故

登山中に行方不明の女性を保護

2日午前8時半ごろ、単独で登山すると告げて出掛けた富士宮市外神、無職徳田康子さん(66)が、深夜になっても帰宅しないため、家族が警察に届け出た。

富士宮署によると、徳田さんは同市猪之頭の頬森山を登山中に転倒して軽傷を負い、携帯電話を紛失。下山中に道に迷い、野営をしながら山梨県方向に移動した。天子湖付近で男性と出会い家族へ連絡。4日午後0時45分ごろ、内船駅で南部署員に保護された。

富士宮署と南部署の山岳遭難救助隊などが頬森山付近を捜索した。

大型ミキサーに巻き込まれ死亡

2日午前6時40分ごろ、富士宮市麓の家畜飼料製造販売業青木信静岡営業所で従業員の同市上井出、菅原弘一さんが大型ミキサーに巻き込まれて死亡した。

富士宮署によると、菅原さんは牧草と配合飼料を混ぜ合わせる作業をしていたという。同署が労災事故として原因などを調べている。

31人（前月比114人減）、男性は、12万5731人（同比48人減）、女性は、12万8200人（同比66人減）。世帯数は、10万5870世帯（同比47世帯増）となった。

話した。

ロ．静岡労山（報告＝瀧　茂理事）
３／９日　７０歳・単独無届登山・午前１１時から登山・怪我なし
安倍奥・青笹山。地蔵峠に続く稜線を進み、細木峠の道標をに従い、分岐目指して下降した。最初は大石がゴロゴロした狭い所。道標なし。急坂で数m下ると、ザレ場に変わった。Ｕ字谷。真ん中は浮石で掴まる木はなし。進行方向左の壁に寄った。赤い布が木にあった。１５：３０、更に下ると小高い場所になる。谷の反対に移るのを試みたが、足をくじく危険を感じ、１６：００、１１０番通報した。

静岡の見解：お粗末な登山だった。入会は昨年１１月。

司会：今まで色んな意見が出ましたが、事故防止の為の対策はどう考えていますか？
先ずは新人教育は必要。会山行にも参加。２万５千図を図書館で借りてコピーするかカシミールでダウンロードする等して必ず持参する。それには地図読みを強化する。必ず持つものをもう一度検討する。(自分の常に持つ物を披露。ビバークシート、ライター、ホイッスル、ヘッドランプ、ナイフ、メタ、カットバン、電池の替え、ＧＰＳ等)

安部っ子：心不全の事故が全国連盟でも多くなっている。県連内でも高齢化になっている事実も踏まえて、計画書の中に病歴の既往があるかないかも必要では？
又、無届登山２回以上続けた場合は運営委員会で検討し、会を辞めて貰うことも考えている。
静岡：山行以外に車の運転事故も増えている。車の事故とか、スピード違反等があった場合、運転手だけの責任に押し付けるのではなく、パーティで責任を負う。
三島：テント、山小屋では飲酒は可だが、行動中は一切酒は禁止している。
司会：早朝３：００とか夜行は大変。高齢化したらその点も考える。車も含めて「安全登山」をする為に、会で検討して下さい。

３、　その他の今後の予定
イ、9 月 29 日（日）ベルグシュタットによる学習会
場所：静岡周辺
訓練会場までの片道コースタイム 2 時間以内
30 人程度が集まれる場所
山頂まで行く必要ないが、行けた方が楽しめる？

テーマ：ハイキングでのセルフレスキュー
装　備：ハイキング装備、必須ではないがあると良いもの…細引き、三角巾、テーピング、ツエルト、ワイヤーソー
内容（セルフレスキューの意義）
・何のため？　・どこを目指すべきか？
背負い搬送方法の試行(5 名残後の班に分かれて試行して貰う)
・ザックを組み合わせる方法　・ザックを反転　・レインウエアとザック組み合わせた方法　・登り、下りの試行、メンバーのサポート方法　・背負い交代の練習
・その他、情報交換

ロ、１０月２７日（日）場所：清水分庁舎　１３：３０～１５：３０
午前中：理事会　午後：安全登山講習会
内容：「地図読み」登山時報＝静大教授・村越　真氏に依頼

＜53 期専門部担当者会議；自然保護部＞2019 年 5 月 19 日（日）　報告；三島労山山口美恵子

総会で決まった方針について経過報告・検討をしました。
1. 全国一斉清掃ハイク、自然保護デーに取り組む。
６月：全国一斉清掃ハイク実施予定日：山域
伊豆ハイク 5/25 西伊豆山稜線　三島労山 6/2 越前岳　駿東山の会 6/9 鷹ノ巣山
沼津労山 6/9 位牌岳　あさぎり 6/1 天子～長者ヶ岳　清水労山 6/9 日本平
静岡労山 6/8 日本平　安倍っ子 6/2 安倍城　焼津山の会・NMC6/2 高草山　山登歩 6/2 びく石　浜松労山 6/2 湖西連峰
＊静岡市・富士宮市：清掃ハイクを行う連絡➡要請のコース在り（➡静岡市は報奨金有）

＊山登歩：一般公募する。(交通費・豚汁などは会負担。一般参加者は１日保険金負担のみ)
＊浜松：湖西市に連絡しごみ(登山口に置く)は市が回収
＊【清掃ハイク実施中】短冊・パウチなどを付けている。
＊登山道にはごみは少ない。今後も一般ハイカーの意識喚起のためにも行う。

10 月：自然保護デー
中部ブロックは合同実施予定：交流ができる。沼津労山；10/20 伊豆ジオ研修予定

２．労山「自然保護憲章」の呼びかけに沿って、自然保護環境の保護に努める。
具体的には何をすべきだろうか？
提起：現在山を破壊しているのは何だ？人間・鹿(伊豆半島３万頭、富士山域２万頭)
山が荒れ土砂災害。漁場を荒らす。(例：桜エビ不漁)マダニ・ヒルが繁殖
＊破壊されている山域を観察し、行政に訴えよう。
＊オオカミが山を救う。参照：伊豆ハイクＨＰマサの山歩き

３．リニア新幹線建設に、県内外の山岳団体等と連携し積極的に反対、監視をしていく。
リニア署名活動について
提起：リニア建設は如何して中止すべきか。を訴え署名集めをしよう。
①南アルプスが破壊される。②安全上(断層など考慮すべき。)③経営上④危険な磁力線

４．携帯トイレの持参や、使用炭ペーパーの持ち帰りの普及を推進する・・継続。

５．南アルプス高山植物保護活動等、自然保護や環境の向上を目指す立場で、行政と協力、連携する。
今までどうり行う。(各団体から協力要請➡協力)

６．鹿害の実態調査に取り組む。
山岳団体ができる状況ではないので、行政に現状を訴える。

以上（理事会報告は、未達のため未掲載）

６月度例会報告　　２０１９．０６．０２　　生協２Ｆ　１６：００

１．活動報告

	０６月０２日（日）～３日（月）	越後駒中止
ＮＯ．１８１９	０５月２６日（日）	富士山（山岳スキー）・九合五勺まで　２名
	０５月２６日（日）	富士山・越後駒訓練＝中止
	０５月１９日（日）	理事会・専門部会
	０５月１４日（火）～１８日（土）	小豆島おへんろ
ＮＯ．１８１８	０５月１２日（日）	西丹沢・菰釣山＝北尾根・北東尾根 男子＝３名、女子＝２名
ＮＯ．１８１７－４	０５月０２日（木）	浅間隠山（登山）
参考	０５月０２日（木）	角落山（つのおとしやま）男坂コース・ 道なし・沢入口まで ）
ＮＯ．１８１７－３	０５月０１日（水）	尾瀬・至仏岳（山岳スキー）
ＮＯ．１８１７－２	０４月２９日（月）	尾瀬・大杉岳（山岳スキー）
ＮＯ．１８１７－１	０４月２８日（日）	栗駒山（山岳スキー）
参考	０４月２７日（土）	鳥海山（大雪で秋川直下まで 5/2 日まで２名
ＮＯ．１８１６－２	０４月１９日（金）	石老山
ＮＯ．１８１６－１	０４月１８日（木）	越後駒ケ岳（標高１６００ｍまで）　２名
まったりハイキング	０４月１６日（水）	奥多摩・棒ノ折山　会員４＋一般２名
ＮＯ．１８１５	０４月１３日（土）	富士山・二ッ塚（洞門下から上り滑り＝標高

差９００ｍ）　　２名
０４月０７日（日）　例会（角池でお花見）　　８名

２．今後予定（変更もあります・日程確認の為、山の会以外の予定も掲載しました）

６月度	０６月０２日（日）　まったりハイキング＝富士山麓・・・山シャクヤクを訪ねて	
	０６月０２日（日）	６月度例会
	０６月４日～８日間	何処か残雪の山・・・例会で相談
	０６月１２日（水）	伊豆巡礼
	０６月１５日（土）か１６日（日）	ハイキング
	０６月２２日（土）か２３日（日）	ハイキング
	０６月２６日（水）	伊豆巡礼
	０６月２９日か３０日（日）	ハイキング
７月度	０７月末～８月初旬（２５周年記念登山）・・・黒部源流・雲の平方面	

３．会名について・・・愛称を「れいほう山の会」
４．リニヤ署名
５．その他

以上

４月１９日（日）

県連・教育遭難対策部会

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　ＧＴ

山行 NO　　山行ＮＯ．１８１６－１
日　時　　２０１９．０４．１８（木）無風快晴高温
山　域　　越後駒ケ岳（２００２．７ｍ）
コース　　石抱橋発５：３０－林道取り付間違え戻る５：４５－長い林道—柳沢（尾根取り付）６：１６—１０６４ｍ峰７：３６—道行山８：３５－小倉山トラバース１０：００－最高到達点・標高約１５５０ｍ１０：４０－滑降—道行山１１：５４—林道１３：０７－石抱橋１４：０１
標高差　　上り　石抱橋約７５０ｍ～引き返し点約１５５０ｍ＝約８００ｍ
　　下り　　〃

越後駒は一流の山だった

「今月」二度目の越後駒だった。情熱はあった。
前回は４月４日。意気込んで来たが、寒の戻りで季節外れの大雪。地元の方は「１ｍ積もった」と話していた。石抱橋から潔く帰った。
そして今回。天気は良かった。橋から駒が大きかった。既に３名先行。北の又川に沿って進んだが、実はこのルートは間違いだった。橋の先で林道を行くのが正解だった。２０分程ロスした。
雪が締まっていたので、スキーは背負った。
ただ、前日のスキー跡はカチカチで怖かった。特に崖の上の狭い場所のトラバースが悪かった。

４月４日

４月１７日

石抱橋から駒ヶ岳

天気は良い

滑落すれば１０ｍ下の川にドボン。嫌なところだった。
小一時間で柳沢に出る。
右折して尾根に取りつく。物凄い急登。道行山まで標高差５００ｍはキツイ。
標高１０６４ｍ峰で展望が開け、正面に純白の駒ヶ岳が見事だった。しばし感動。
目を凝らすと先行した２名が道行山の急登で喘いでいた。我々は壺足で上る。
最低コルの部分だけ少し雪が切れていた。
下から２名上ってきて抜かされた。彼らはシールで上っていた。この程度の斜面をシールで上れなければ時間が掛る。
ようやく道行山手前からシールで上る。ただ、ピークから少し下るので、また壺足になる。慣れた方は、そのまま下るようだ。要するに、あんなこんなで、ヘボは兎に角時間が掛る。

小倉山に向かう。気がかりだった尾根の「雪割れ」はなかった。
地元の「みちぐさ山の会」Ｍさんの情報では、「雪が少ない」だったが、里と山は降雪量が違うようだ。３月中旬からの「寒の戻り降雪」が大きかったようだ。
天気は良かった。風もない。それ故に非常に暑かった。汗がガンガン流れる。暑さに弱い私は、徐々に疲労が増していった。
小倉山はピークを踏まないで、南をトラバースする。頭上には大きな雪庇があった。あんなものが崩れたらひとたまりもないだろう。思わず急ぎ足になってしまう。
この辺りで２名に抜かされた。我々が特に遅いとは思わないが、これで４名抜かされた。先の方は、結局６時に出て、頂上に１１時半着いたという。５時間半である。
当然、下りも早く１４時前に下り切った。年蓮は５２歳だった。今回、何人かに年齢を聞いたが、

「島田しらびそ山の会」の方が、最高齢で６２歳だった。７０代はいなかった。そもそも７０代で来るか。しかし、こんにちまでさほど年齢は意識していなかったが、今日は違った。私も気が付いたら、完全な「ジジイ」になっていたのだ。
小倉山をパスしたがピッチは上がらない。過呼吸で胸が苦しかった。最近、特に「ゼ～ゼ～ハ～ハ～」が苦しかった。飲みすぎ？？！！もあるか。
上部を見ると駒の小屋手前の急登を数人が蟻のように張り付いていた。「あんな所を上れるだろうか」いや、上れても「滑降が出来るだろうか」一抹の不安がよぎった。

駒が雄大だ（道行山付近）

小倉山付近

天気は相変わらず良かった。ますます暑かった。モーレツに暑かった。体力はドンドン失われた。
越後駒は標高約２００３ｍ。いつも訓練している、富士山・二ッ塚上塚の標高とさほど変わらない。
なのに、この苦しさは一体なんなのだろう。
また一人抜かされた。昔は抜く事はあっても、抜かされる事はなかった。
夏の百草ノ池付近に達した。標高は約１５５０ｍ。橋から約８００ｍ上った。頂上まで、まだ４５０ｍ弱ある。あと２時間以上掛るだろう。時間は１０時半。タイムリミットは１２時。今の調子では、とても無理な時間だった。
非常に残念だったが、今回はここまでとした。「越後駒は一流の山」「もっと若い時に来るべきだった」「７０歳代の人間が来る山ではない」と痛感した。

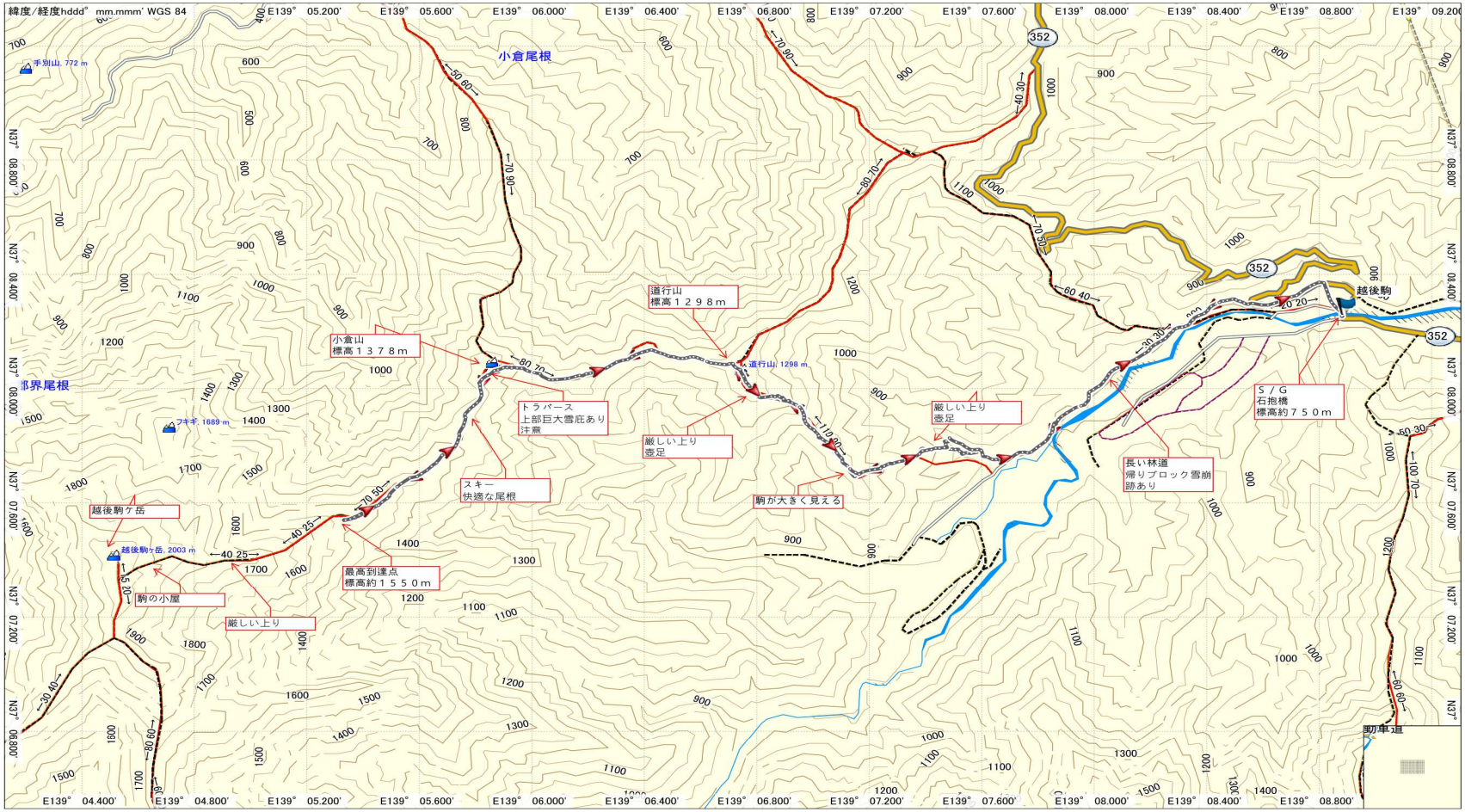
標高１５００ｍ付近の滑降

下から３名上って来た。今日、最後のパーティーだった。
１名はスプリット・ボードで黒人さんだった。雪山で黒人さんは珍しい。
愛想が良い方だった。
滑降は早い。完全なザラメではなかった。やや重い感じ。
巨大雪庇の小倉山をパスして、最低コルから道行山を上り返す。上れば滑降。しかし、急な雪壁はスキーを脱いた。これではますます時間が掛る。要するに技術がない。

柳沢

壁下の木陰で何処かのオジサンが休んでいた。
「今日は、お終い」といっていた。ここまで上り、越後駒を愛でるだけでもイイだろう。我々も大休止。本日、休憩らしい休憩は初めてだった。
快適に下って行くと、後ろから早くもトップグループが下って来た。勿論、頂上は落とした。トップは、県連のＴに似た口調の前出の５２歳の若い衆。ほかに２名。後の２名は「サイコーにスキーが上手い」とＴ似がいっていた。
Ｔ似は前回４０歳の時、上ったという。コースを知っていると、また状況は違うだろう。スキーの上手い２名も５０歳代だろうか。

長い林道を進む。最後は林道滑りを楽しんだ。
今日、駒に向かったのは１２～３名程度。ほとんどが帰って来た。時間は１４時。６時に出て往復８時間。通常、往復１０時間といわれるコース。皆、速く強い。
「技術・体力・精神力」が備わっている者のみ許される山。越後駒は、本物の山だった。



Japan Topo 10M Plus V3
CameraMaps Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1985-2014

2019/04/20 10:15:29

GARMIN.

山麓の花々　（小出・大湯付近）　カタクリ

キクザキイチゲ

まったりハイキング・写真報告書
２０１９．０４．１６（火）　奥多摩・棒ノ折山（９６９ｍ）　会員５名＋一般２名

椿ノ嶺
569M

裾野麗峰山の会・山行報告書

２０１９・連休は山岳スキーで鳥海山、栗駒山、尾瀬・大杉岳、至仏山だった。
今回のツアーの目的は、「新しい山岳スキーの山、新しい山岳スキーのコース・ルートの追求」だった。長く山をやっていると、「未知の山・知らない山・新しい山」をやりたい。新鮮な感覚で山に上りたい。

４月２７日、鳥海山・秡川に向かった。しかし、またまた「寒の戻り」で大雪。
今期、「寒の戻り」で大雪に遭うのは３回目。気まぐれな春の雪に振り回される。・・・と、言っても自然相手では、どうにもならない。

鳥海山・秡川は標高約１２００ｍ。富士山・富士宮口五合目より、やや低い位だが、かなり高い。直下まで上ったが、雪がバンバン積もる。仮に上っても、通行止めになったら、今日・明日、下れない可能性がある。
結局、直下で潔く撤退し、同じ鳥海山・吹浦に向かった。しかしＴＥＬで確認すると、こちらは既に「通行止」だった。長駆６００ｋｍ、１９年ぶりに秡川に来たが、結果は残念なものだった。
今回のこの寒の戻りで、北アルプスをはじめ、全国で８名の方が山で亡くなった。
以前、知り合いの仲間が常念岳で２名亡くなったが、やはり４月末の嵐だった。この時期の荒天は怖い。

鳥海山・秡川林道

山行 NO　　山行ＮＯ．１８１７－１　　文・写真　ＴＧ
日　時　　２０１９．０４．２８（日）快晴・超強風
山　域　　栗駒山（１６２７ｍ）
コース　　いこいの村上駐車場１０：５３－イワカガミ平１１：４７－大斜面―頂上１３：１５～３０－イワカガミ平―駐車場１５：００－檜枝岐移動
標高差　　上り　いこいの村上約８３２ｍ～栗駒山１６２７ｍ＝約７９５ｍ
　　下り　　〃

鳥海山を諦め、早朝、次の目的地の栗駒山に向かった。
栗駒山まで各径路があった。スマホで最短経路を検索した。ただ、スマホは最短を表示するが、道路状況まで吟味しない。
結果、最短経路を行ったが、峠がまだ未開通で越えられなかった。スマホに頼りすぎた結果だった。
大いに反省。何だかんだで、栗駒山麓着１１時前だった。
栗駒も新雪が積もり、いわかがみ平まで行けず、いこいの村上の駐車場でお終い。
加えて昨日のＬが抜けて、Ｈからの超猛烈な風が吹きまくっていた。ただ、風はあまり冷たくなかったので有難い。ここからシールで上る。

いこいの村上の駐車場

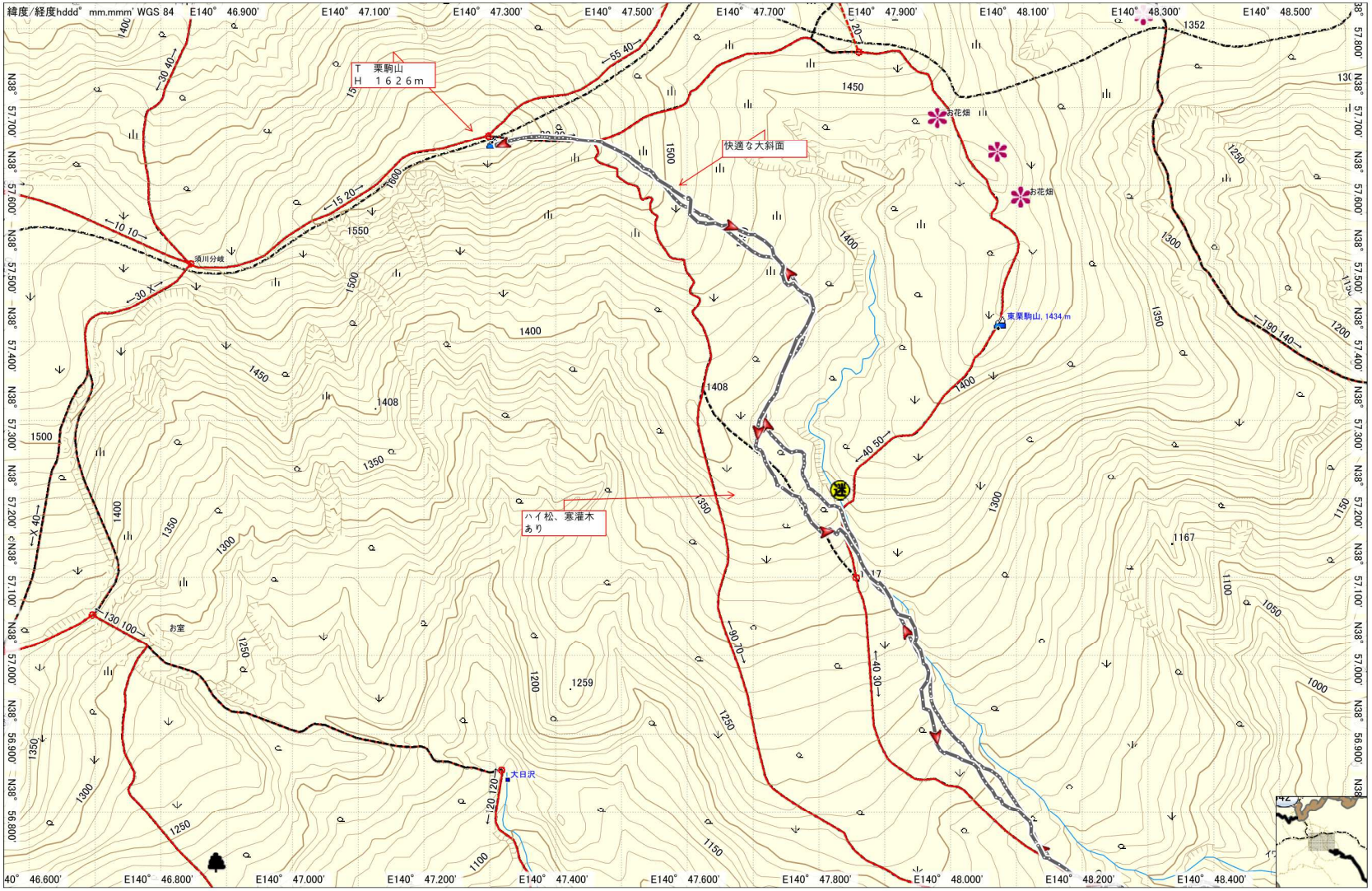
出発点

懸念された、雪はバッチリだった。今年は３～４月に降雪が続き何処も雪が多かった。こんな年もある。いわかがみ平まで標高差約３００ｍ弱。ここを滑れるのは、得した気分だった。
いわかがみ平着。仰げば、純白のドレスを纏った「栗駒姫」がほほ笑んでいた。スキーは初見の山。
新鮮だった。さあ、行くぞ。この日は、長いドライブにも関わらず、体調はサイコーだった。
風はとにかく強かった。が、めげなかった。気合は十分だった。風が冷たくないのが幸いした。
雪は硬く締まっていた。従ってシール登行は楽だった。暑くないのも大いに助かった。
しかし何故、自分は暑さに弱いのか分からない。加齢か？？！！
グングン上る。前を何人か上っていた。
程なく一人抜かした。最近は若い衆に抜かれることが多いが、抜くのは「珍しかった」。
何処かのオジサンだったが、随分、苦しそうだった。この程度の山で不思議だ。

ブッシュ帯を抜けて右手に回り込んで、頂上に続く大斜面に入る。
夏は何回か上っている栗駒だが、雪山は初めて。
当初、「雪が少ないのでは」の懸念があったが、とんでもない、雪は豊富にタップリあった。
しかし、こんなに美しい純白のドレスを纏った「栗駒姫」に会えるのは、大いなる喜びであった。
遠路、訪ねた甲斐があった。大斜面は、新雪が積もっていた。やや重そうだった。早くも頂上から一名滑って来た。
上手い方だったが、新雪で滑らないストップ雪にやや苦戦。気持ちの良い斜面を上りきると頂上だ

純白の栗駒姫

った。直下は氷だった
頂上のブッシュには、シュカブラ（エビの尻尾）が伸びていた。
風は相変わらずだが、天気は良く大展望が広がっていた。ただ、東北の山は、なじみが薄いので山座同定は難しかった。
今回は頂上まで、標高差は約８００ｍ。時間は約２時間１５分。まあまあ、いいタイムだった。
頂上で写真を撮って貰った。特に頼まなかったが、居た方が「撮りましょうか」でお願いした。
世の中には、フレンドリーな方がいらっしゃる。お返しに、その方達も撮ってあげた。
頂上から滑降。トップから直接の滑降はサイコーの気分。
ただ、右手は崖だから要注意。
上部はアイスバーンでカリカリ。中部は、やや新雪が重い。
飛ばしたら、珍しく「大コケ」。変な格好で起き上がれない。
相方を呼んで、ビンディングを外して貰った。パーティーで行動の場合、離れても「見える範囲」に居るのが基本だ。
見えないと何かあった時に「何も出来ない」からだ。これは登山だけでなく、巡礼やウオーキングも同じこと。頂上に居た男性も駆けつけ（といっても、スキーでだが）てくれ、「大丈夫ですか」のお声掛けをしてくれた。他人でも「仲間を気遣う心」に痛く感心。下部はまあまあだった。総じて新雪はダメ。旧雪は快適。しかし、相方は「サイコー」だったといった。



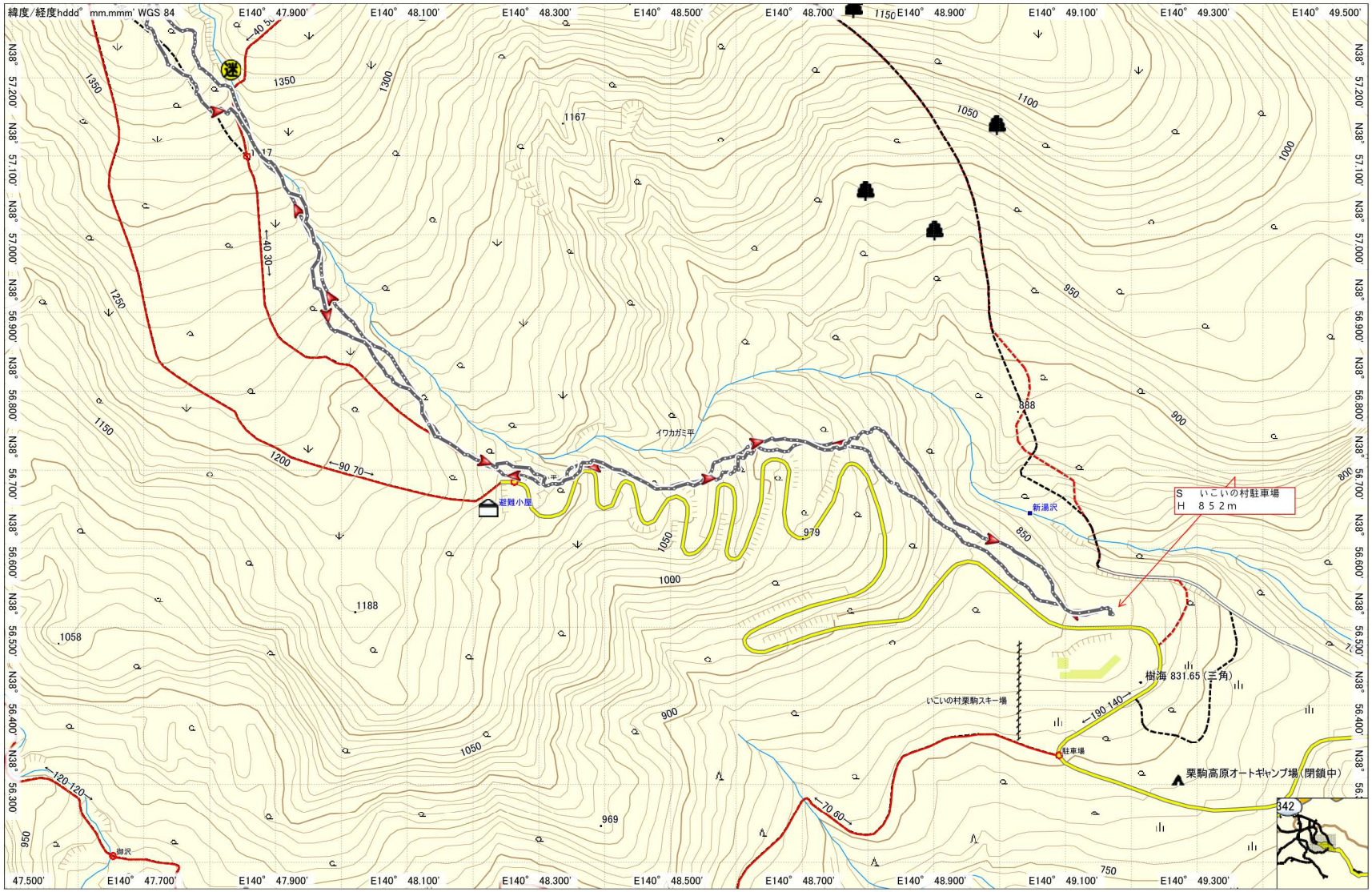
Japan Topo 10M Plus V3
GarminMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2019/05/03 9:42:38

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN.

MN TN
-7.6°
2010/01/01



Japan Topo 10M Plus V3
CanverMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1985-2014

2019/05/03 9:42:38

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN.

理由は何故か。いわく、「体重の差」という。軽量の場合は、あまり沈まないので良いという。ま、ある程度は、当てはまるかもしれない。
下部は比較的快適に飛ばし、直接車まで滑った。車まで滑降は一番イイ形だ。出発時、あんなにあった車は３台しかなかった。隣の若い衆は頂上まで行かなかったという。
いこいの村で温泉に入り、尾瀬・檜枝岐に移動。山麓は、広大な湿原に水芭蕉が見頃。山裾は、桜が満開だった。

山行 NO　　山行ＮＯ．１８１７－２
日　時　　２０１９．０４．２９（月）快晴・風なし
山　域　　尾瀬・大杉岳（１９２２ｍ）
コース　　御池１１：２０－大杉岳１３：１４－御池１４：０２－至仏山に移動
標高差　　上り　御池駐車場約１５３０ｍ～大杉岳１９２２ｍ＝約３９２ｍ
　　下り　　〃

桧枝岐に移動。距離はある。
会津若松で磐梯山が大きかった。立派な山。数々の思い出がある。雪があればスキーをしたい山。
山麓は、何処も美しい桜・梨・桃の花が楽しめた。さながら「桃源郷」
天気は良い。車は混雑していない。人も少ない。
桧枝岐に来た目的は、初見の大戸沢岳に上り滑ることだった。
しかし、現地に着くと、既に下部の雪は切れていた。南面で日当たりが良い、登山口の標高が低いが理由だった。大戸沢は断念し御池（みいけ）に向かう。

磐梯山

桃・梨畑

御池駐車場

大杉岳

途中、桧枝岐の道の駅で浜松のソロの方に会った。聞けば、「４月から来ている（放浪？？）」という。何時までに、「６月まで」といった。目的は、「写真撮影」だった。
家は大丈夫に、「俺は一人だから、問題なし」だった。道の駅に車中泊するという。

御池に上がった。時間はやや遅かった。一昨日の経路選択誤りが、まだ影響していた。
駐車場の車は多かった。殆ど燧ケ岳が目的の登山者・スキーヤー。雪は多く周りは３ｍの雪壁だった。燧ケ岳は、２０００年に既に上って滑っている。時間が遅いこと、初見の山がイイで反対側の大杉岳に向かった。
ここで上からゾロゾロ降りて来た。朝上った方々だった。ブナのイイ感じの森を上る。天気は良かった。誰も居ない。今日は風はなかった。
空が切れたら、簡単に頂上着。あっけなかった。標高差４００ｍでは、こんなものだろう。
ま、たまにはイイか。
ノンビリ頂上で休憩。会津駒方面にトレースが多くあったが、何処に行ったのか。南に燧ヶ岳が大きかった。ほどなく滑降。雪はまあまあだった。
最低コルから尾根を外れ、山腹を飛ばす。
そこに落とし穴。オオシラビソの枝を潜ったかと思ったら、どっこい、枯れ枝が伸びていた。
その枯れ枝が顔面に直撃。「ワ～ッツ」と叫んで倒れた。「やばい」「出血が多かったら、どうしよう」と一瞬思った。が、幸い眼もかすめ、出血は少しだった。
それにしても危ない。ツリーランは飛ばしてはいけない。
ややルートを外して御池駐車場着。ここに一人のご婦人がいた。年齢は７８歳。以前登山・スキーをバリバリやっていたが、今は留守番。留守番の理由は、「８２歳のご主人」が、燧ケ岳に上って

燧ヶ岳

滑降

いるから待っているという。栃木の宇塚さんだった。
うあ～、８２歳！！私より１０歳多い。しかも、「一週間前、前立腺ガンの手術」をしたばかりという。信じられない！！出かける方もそうだが、出す方もそうだ。
奥様曰く、「いつ死ぬかわからないので、好きにさせている」。ご立派！！！
駐車場には、様々な方がいらっしゃる。宇塚さんの友人のスキー板は、子供用のショートスキー板で靴は登山靴。
ビンディングは、ジルブレッタ４００だった。いわく「軽くてイイ」だったが、それで滑る？？！！
私も以前、といっても１９７６年当時だが、ジルブレッタのワイヤー・ビンディングで尾瀬に初ツアーしたことがある。当時、靴はやっぱり「ヘンケの革登山靴」だった。

栃木の宇塚ご夫妻

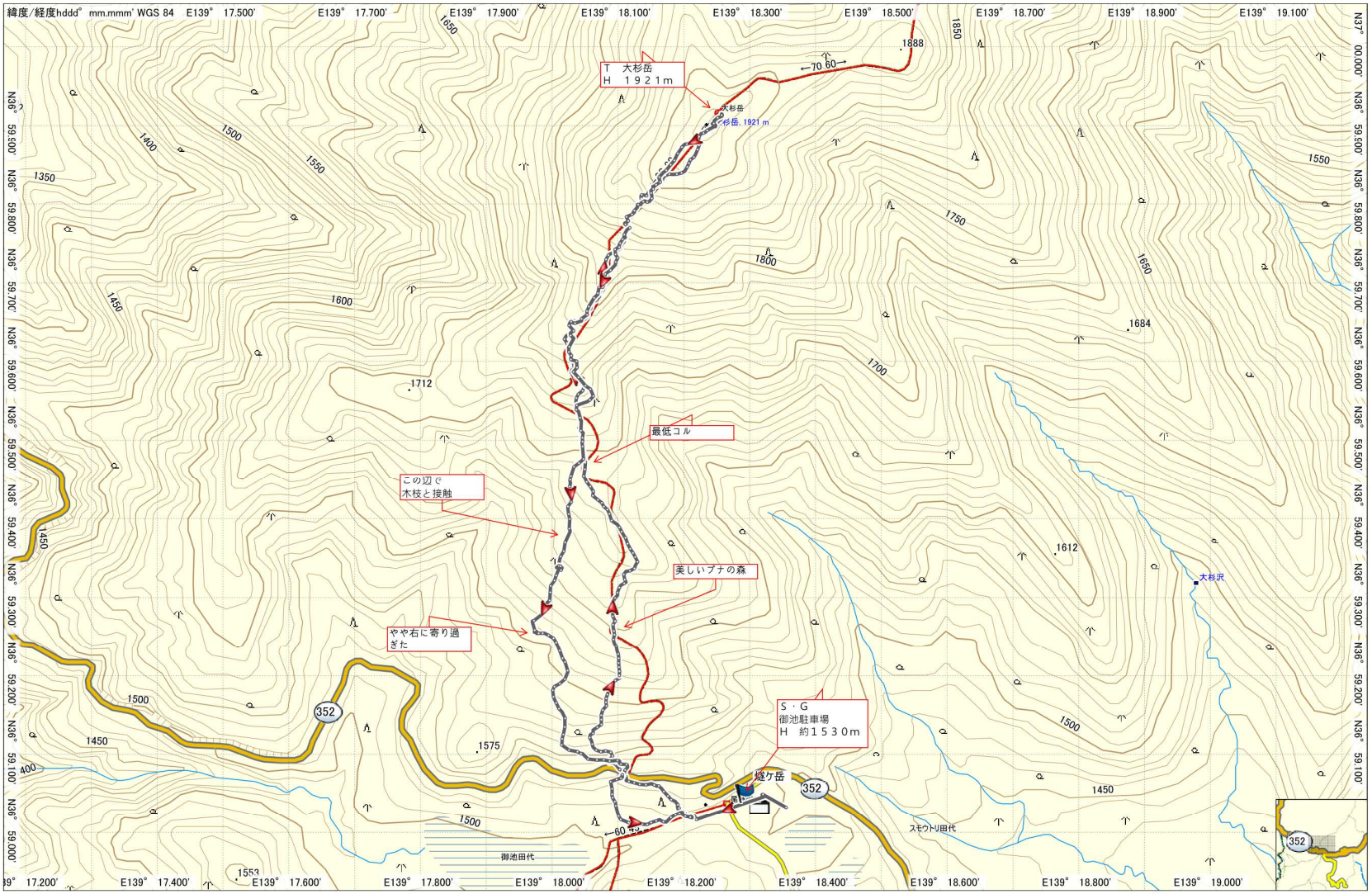
何処かのジイジ

登山靴と子供用スキー

車内のソーラー照明

板はスポーツ店の抽選で当たった２ｍ近いもの。シールは、糊でなく左右から紐で縛る方式だった。
現在のように、積極的に「滑る」のでなく、どちらかというと「歩く」ものだった。
その方の車は装備が立派だった。照明は屋根にソーラーを付け蛍光灯が光っていた。携帯・パソコ

屋根裏に保管の１９７６年当時のジルブレッタ・ワイヤー式ビンディング



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2019/05/03 9:42:38

GARMIN.

ン電源もあって長期旅行でも何ら問題なかった。本業は電気屋さんで、作業はお手のものという。他に「髭が異常に長いオジサン」とか様々な人間模様だった。

４月３０日（火）雨
次は至仏山に向かう。ここから至仏山は目と鼻の先だが、道路経路は関越に出て沼田ＩＣから入る。関越に出るのには日本海東北道が一般的。しかし、途中のコンビニで有益な情報を入手した。

田子倉休憩場

只見線・大白川駅

何と「六十里街道」が通行出来るという。これがＯＫなら経路は半分になる。
翌日、半信半疑で行ってみたら、完璧に通行出来た。道は会津若松から小出を結ぶ「只見線」と並行している。「只見線」も半端ではないが、この時期の峠越えは素晴らしい。
途中、大白川駅に寄った。一緒に寄った方の話では、只見線は「超超ローカル」で、一日三本しか運行していない。現在は豪雨で橋が流れ、通し運行はない（代替えバスあり）。廃線にしたいが出来ない、という。一度は通しで乗ってみたい路線である。
関連記事　https://www.kzlifelog.com/entry/jre-tadami-report-2017

峠を下って行くと、三渕沢集落に「ものずき村」の看板があった。早朝から人の出入りが賑やかで山菜が豊富に揃っていた。店主は「村長」の仲丸　幸（みゆき・男性）さん。黒板を見たら「定例議事会」なんて書いてあるから、てっきり本当の村長さんかと思ったら、この店の長だった。奥様は昔、学校を卒業して、清水町の大東紡績に集団就職したという。静岡の話をしたら懐かしがっていた。山菜のご馳走を無料でわんさか頂きました。お腹いっぱいで退村。関越を沼田で降りて至仏に向かった。

ものずき村

仲丸村長

山菜料理

奥様

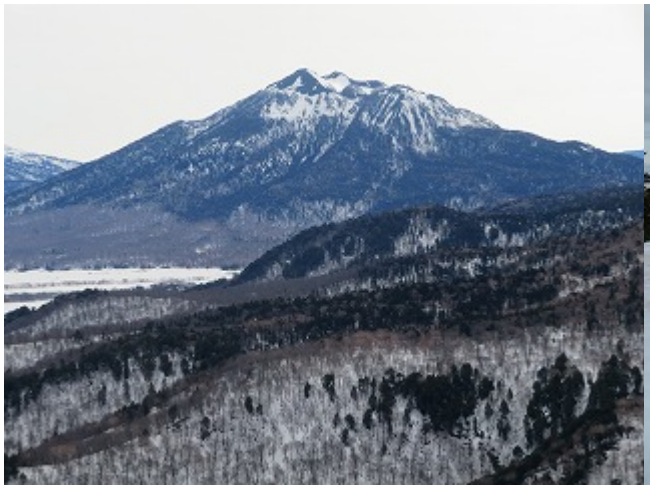
山行NO　山行ＮＯ．１８１７－３　文・ＫＨ　写真・ＫＨ、ＴＧ
日　時　２０１９．０５．０１（水）晴・風なし
山　域　尾瀬・至仏山（２２２８ｍ）
コース　鳩待峠駐車場５：２６－至仏山８：３５―ワル沢滑降―川上川１０：００－大休憩―鳩待峠１０：５９－移動
標高差　上り　駐車場約１５８６ｍ～至仏山２２２８ｍ＝約６４２ｍ
　　川上川約１５００ｍ～鳩待峠１５９１ｍ＝約９１ｍ
　　下り　至仏山２２２８ｍ～川上川約１５００ｍ＝約７２８ｍ

尾瀬を代表する雄大な山、至仏山。２億５千万年以上前にできた尾瀬最古の山、至仏山。
蛇紋岩の岩肌には特有の貴重な高山植物が多いと言う。然し、今は雪でスッポリと覆われ花はない。が、然しだ、頂上からの１枚バーンは滑る者にとっては今が一番魅力的な山となる。至仏は昨年も滑っていた。が、今回は初滑の「ムジナ沢」をやる予定。

早朝、登山口である鳩待峠の駐車場には続々と車が入ってきた。身支度を整え、鳩待山荘から西側にあるブナが茂る緩やかな登りから出発。今年は昨年より雪が多そうだ。
昨年は私のシールの不具合もあったけれど、所々土がむきだし、木の根がむき出しで、スキー板は担いで登った。今年はそれがない。木々の間から見え隠れする頂上は真っ白で純白のドレスをまとっているかのように見えた。

陽がさし、気温は上昇。暑い！されど黙々と頂上目指して板を滑らして登る。一人５０代位の男性が後方にいたが随分と苦しそうだ。やはり山スキーだ。大丈夫だろうかと心配になる。針葉樹林帯から尾根道に入ると、小至仏山から頂上全体がドアップで迫ってきた。今日も足は快調だ。周りの景色を楽しむ余裕も十分あった。又、天気がいい。素晴らしい！！

シール登行しながら、景色を堪能する。昨年は曇って見えず、ただ登って滑った・・という記憶しかないが、こんなに素晴らしいとは・・・。下の写真のＣＬは感激して泣いているのではない。



燧ヶ岳

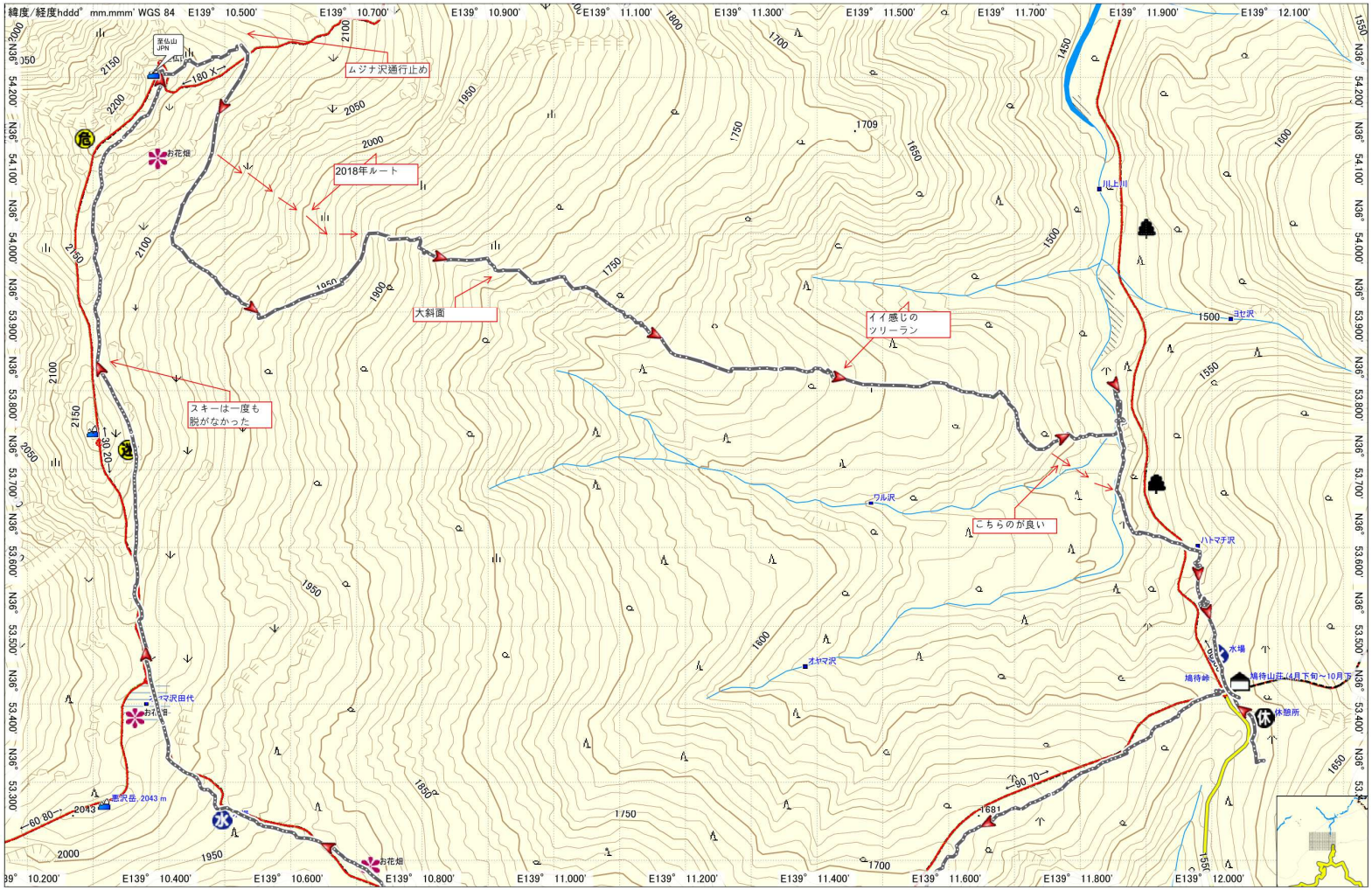
雪は多かった

「令和」ラーメン　　至仏山

小至仏山をトラバースし、ひと下りして又、登り返しで頂上着。既に「つぼ足組み」の３人の若者がいた。そのうちの一人が「令和」のカップラーメンを取り出し、記念写真をとってくれた。そうだ。今日は５月１日。
令和元年初日だったんだ。いい幕開けとなった。頂上からは、平ケ岳、上越の山々、日光の山々など３６０°の眺望。又、海のように広がる尾瀬ケ原も感激だ。

ワル沢滑降

小腹を満たし、いざ滑降！
数人いるスキーヤーは、様子見で滑降に移らない。我々が先頭で滑降。
最初、ムジナ沢を目指した。イイ感じの雪を滑る。ムジナ沢入口に×印にロープが張ってあった。
予定していたムジナ沢コースは、雪が少なくハイマツが横切り抜けられない。
しかし、ワル沢は多い。ムジナ沢は北東。ワル沢は南東。地形図を見ると、一見、ムジナ沢が多い気がする。ただ、ムジナ沢は、地形図では分からないが、西の山稜が二重になっている。
推測だが、恐らく、雪がそこで一度落とされるので、ムジナ沢に届かないなのでは・・・。
計画を変更して昨年同様山頂から右手のワル沢コースに変更した。ワル沢とは、「悪い沢・割れる沢・破る沢」などの意味にとれるが、意味は不明。ただ、特に悪くも、割れてもいない。
何処までも広がる１枚バーン。ＣＬは右に、左にターンを繰り返しアッと言う間に視界から消えた。
私はというと、１枚バーンは苦手だ。樹林帯をカモシカ？の如く得意のボーゲンで潜っていく方が疲れない。
雪は重く足にまとわりつく。でも足を踏ん張り、腿の付け根の痛さに耐え、ＣＬの後を追う。「あぁ～。疲れたぁ～。休みたぁ～い！」それでも休み、休みして両足が悲鳴をあげた頃、やっと下部に着いた。ＣＬはと言うと、この一枚バーンが余程良かったらしく疲れも感じさせない清々しい顔で待っていた。
小休止。この先の林の中はお手の物。先ほどとは打って変わって、くりくりと板を回し快適に滑


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
ムジナ沢通行止め
2018年ルート
大斜面
イイ感じの
ツリーラン
スキーは一度も
脱がなかった
こちらのが良い
至仏山
JPN
お花畑
川上川
ヨセ沢
ワル沢
ハトマチ沢
オカマ沢
水場
鳩待峠
鳩待山荘（4月下旬～10月下旬）
休憩所
マ沢田代
恵沢岳, 2043 m
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaps Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2019/05/03 9:42:38
GARMIN

る。いい気持ちだ。板と靴と私の足が一体となって小気味がいいほど動ける。この感触がたまらない。この年にして、何時までやれるか判らないが今は十分に楽しみたい。
昨年と違い小尾根を快適に下降し、川上川着。右折して鳩待峠に上る。途中で大休止。頂上にいた若い衆はまで来なかった。
昨年は道ができて、板を担いで登ったが、今年は登山口の際までシール登行で終了できた。今年の山スキーもこれで終わりか・・・。滑り終えた満足感と共に一抹の寂しさがよぎった。

至仏山上り

頂上

至仏山をバックに

川上川

山行NO　　山行ＮＯ．１８１７－４　　文・ＧＴ
日　時　　２０１９．０５．０２（水）晴・風なし
山　域　　角落山（つのおちやま・１３９３ｍ）＝途中まで
　　浅間隠山（１７５７ｍ）
コース　　角落山（男坂コース）白沢橋発７：０４－引き返す７：３０－浅間隠山登山口７：４６－浅間隠山９：０２～４０－登山口１１：１５－帰静
標高差　　上り　登山口約１３３０ｍ～浅間隠山１７５７ｍ＝約５７３ｍ

例によって、最終日は「雪のない山」にした。
角落山に決めて向かった。角落山は、群馬の山にふさわしく、斧でバッサリ切り落としたような山容だった。白沢橋から男坂コースに向かう。
駐車場からすぐ沢を渡り、しばらく行って、また沢を渡る。水量は少ないので問題はない。対岸に渡るが道がハッキリしない。沢コースなので荒れている。スッキリした山に上りたいので、ここで撤退。近くの浅間隠山に向かう。

角落山・男坂コース登山口

浅間隠山登山口

浅間隠山

二度上峠下駐車場で室蘭の方に会った。連休は本土の山を上るという。明日は、大無間に行くといった。駐車場下の登山口から出発。最初はカラマツ林が続いた。振り返ると角落山が見えた。左手には、残雪が多い浅間山が見えた。ただ、頂上は雲の中だった。
急登をこなすと、ほどなく頂上着。展望は素晴らしい。男性が２名いた。１名はオジサンで絵を描いていた。ただ、一言も喋らず不愛想だった。もう１名は連休で東京の実家に帰る愛想のよい若い衆。山は時々上るといった。ワインを勧めると気持ちよく受けた。
そうこうする内にゾロゾロ、何パーティーか上って来た。簡単に上れる山で展望が良いから人気が

浅間山遠望

あるんだろう。何処かの方と山座同定。先日上った、平標山も分かった。
３０分休憩したが結局、浅間山の雲は取れなかったので腰を上げた。下からファミリーがたくさん上って来た。孫と上るジジ・ババもいた。栂池の案もあったが、連休で混雑する軽井沢経由で帰静。

今回のツアーは天候がイマイチでやや収穫が少ないスキーだったが、未滑の山を２本出来たのでヨシとしよう。でも、ああ、やっぱりスキーはいいな～。
８２歳の宇塚さんも頑張っている。私も老け込む歳ではない。ますます、頑張ろう～ぜ！！

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・勝又　　写真・後藤

山行 NO　　山行ＮＯ．１８１８
日　時　　２０１９．０５．１２（日）晴
山　域　　丹沢・菰釣山（１３７９ｍ）
　　男子班＝北東尾根～北尾根　　女子班＝北尾根～北東尾根
コース　　男子＝長泉６：００－道志川・板橋—杣山沢（駐車場）－北東尾根７：３９－別荘「山口」７：４６－１１３０ｍ峰８：４０－北尾根９：２３－ブナノ丸（縦走路）９：４４—菰釣山１０：０４～５６－北尾根—杣山沢の橋（駐車場）１２：５３
標高差　　上り　杣山沢約７７０ｍ～菰釣山１３７９ｍ＝約６０９ｍ
　　下り　　〃
参加者　　男子隊＝後藤・勝又・合谷　　女子隊＝加藤、星＝５名

今回は丹沢・菰釣山（1379m）を上るバリエーションルート。Ａルート（北尾根）、Ｂルート（北東尾根）に分かれ、上りは女性班（2 名）Ａコース、男性班（3 名）、Ｂコースをとり、帰りは逆コースを下ることになった。

駐車場

Ａコースの女子班

男性班は別荘のような建物の「山口」と標識のある家の裏から鹿柵をぬけて尾根にとりついた。
上ってすぐ作業用の道なのか歩き易くなっていた。
立派なシカ柵があった。ドアがあり、こちら側とむこう側で開閉が出来た。
その後 1100m付近までは急登がつづき久しぶりの山行のため、息は荒く辛くなって来た。

１１３０ｍ峰は、広々とした気持ち良いところだった。ただ、北東に大きな尾根があるので要注意。
ピークをすぎると平坦な気持ちの良い歩き易い尾根道がつづく。右手には、この辺りでは珍しい、カラマツ林があった。勿論、「テンカラ」（天然の唐松でない）。向かって右にはカラ松林、左にはヒノキの林の珍しいながめが続いた。
きつい上りを上りきると１２８４ｍの女性班との合流地点の北尾根に出た。手製の道標があった。

右はカラマツ・左はヒノキ

スカイバレー・キャンプ場の道標

左・東海自然歩道３０分、右・「スカイ・バレーキャンプ場」（北尾根下にある）５０分とあった。
女性班はまだ来ていないので先に行く。北尾根はある程度のふみ跡があった。
ひと登りで菰釣山に右の山伏峠からの縦走路に出る。女性班にエールを送ると、下から声が聞こえた。女性班が短距離なのだが、遅い理由は不明だった。

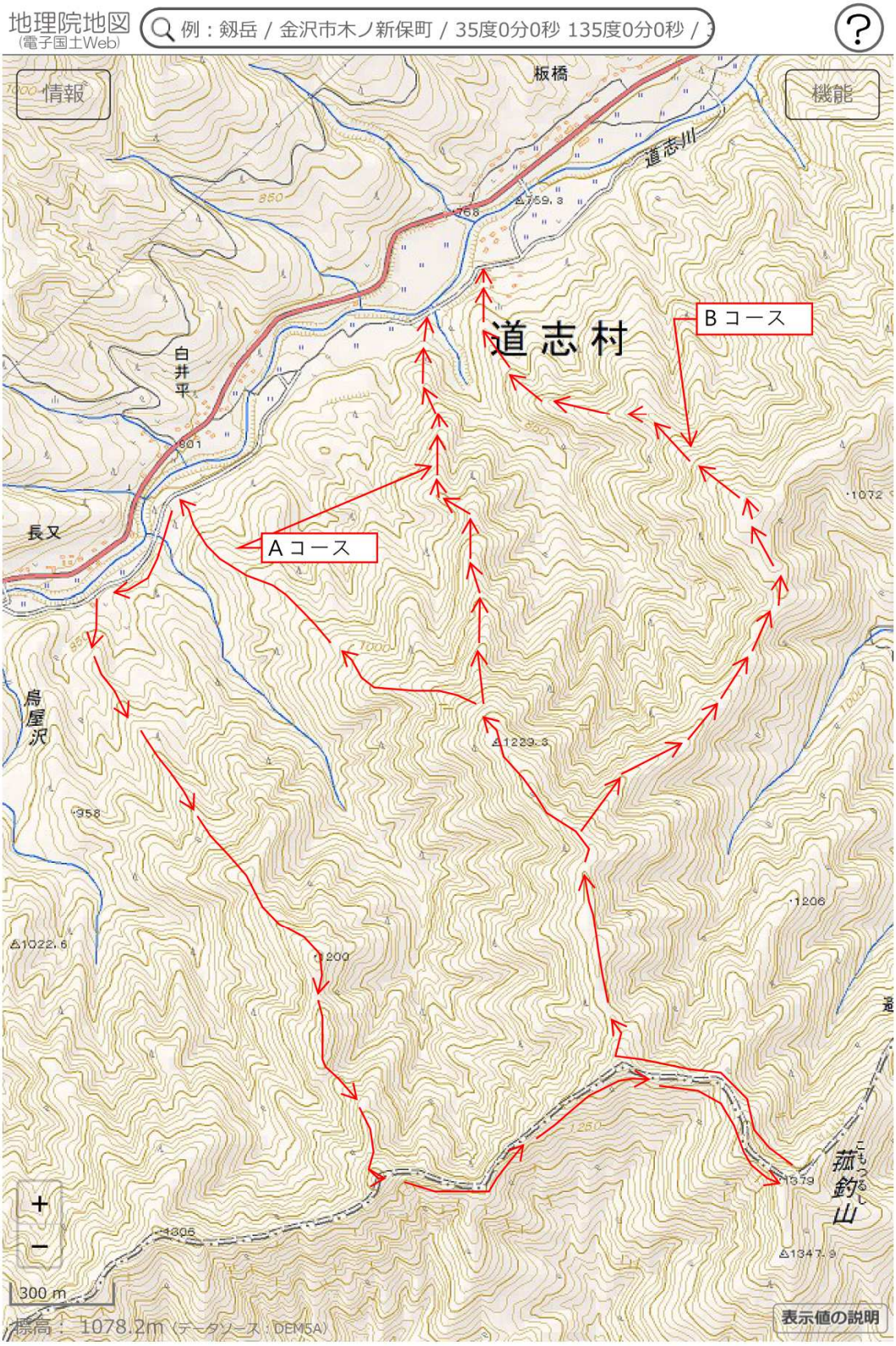
ここからまたひと登りで目的地、菰釣山に到着。今日は、道志村主催のトレイルラン日で世話役２名のオジサンがいた。話を聞くと８００人はドガ参加しているが、最終的には半分くらい

１１３０ｍ峰

菰釣山頂上

女子班

しか完走できないようで、チェックポイントで設定時間をオーバーすると失格になるそうだ。
少し待つと女性班もやってきた。遅れた理由は、「スマホが不調でルートを戻った」だが、２万５千図を持参していた訳だし、イマイチ状況が分からなかった。
時間はやや早かったが、ここで昼食。頂上からは富士山がかすんで見えたが山頂には雲がかかっていた。


地理院地図
(電子国土Web)
例：剱岳 / 金沢市木ノ新保町 / 35度0分0秒 135度0分0秒 /
情報
機能
板橋
道志川
道志村
Bコース
Aコース
白井平
長又
烏屋沢
菰釣山
300 m
標高： 1078.2m (データソース：DEM5A)
表示値の説明

昼食

昼食をすませ下山。帰りは男・女コースを入れ替える。北尾根１２３０ｍ峰・前ノ岳先でふみ跡はなくなり、右の尾根に迷った。５０ｍほど下り、「おかしい」で上り返した。左にイイ尾根が下っていた。

以後、順調に下ったが最後、標高９００ｍで右の尾根に入り、杣山沢に降りてしまった。ここは左を降りるべきだった。沢を渡り左岸を下り、橋に出て無事帰着した。
女性班もしばらく後に無事到着、バリエーションルートは大変厳しいが充実した山登りができ楽しい一日でした。

機関誌「れいほう」5/6 月号　　了

日本勤労者山岳会連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
第 25 期　13・14 巻　　NO.210・11　　2019・5/6 月号

連絡先　　静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12　徳山荘
090-8956～9990　　055-986-6075
後藤隆徳

ＨＰ　　http://susono-reihou.babyblue.jp/

日本勤労者山岳会連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会

会報「れいほう」
第25期　13・14巻　NO.212・13　２０１９．５・６月号

連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12　徳山荘
090-8956～9990　055-986-6075
後藤隆徳

ＨＰ　http://susono-reihou.babyblue.jp/